

(6) 大用小学校

学 校 長 池上みどり
校内研究代表者 山脇 昌代

1. 研究主題

「確かな学力を身につけ、ともに学び合う子の育成」

2. 主題設定の理由

本校の児童は、豊かな自然と温かい地域の人達に見守られ、明るくのびのびと生活している。少人数の集団の中で真面目に取り組むことができ、友だちにも優しい。しかし、少人数がゆえに、短い会話で意思疎通がすんでしまい、自分の意見や考えをしっかりと言葉にしてみんなの前で発表したり、説明したりすることに課題のある児童が多い。また、他校との交流会ではなかなか自分を表現できないなど、自己表現力やコミュニケーション能力に課題がみられる児童もいる。

一昨年度までは、算数科を研究してきたが、全国学力・学習状況調査や高知県学力状況調査等の結果から、国語科に課題が見られたため、昨年度は国語科の授業研究に取り組んできた。10月に行われた複式研究大会に向けて、1学期には全学級での研究授業を行い、西部教育事務所の指導主事に講演や指導案検討をしていただき、複式研究大会でも全学級が公開授業を行うことができた。また、授業スタンダードを見直し、予習を生かした授業づくりについても話し合い、児童用の手引きを作成することができた。また、ワークプリント集を購入し、基礎タイムなどでことばのきまりや読解の力をつけることにも取り組み、基礎学力の定着に努めてきた。

12月の高知県学力状況調査の結果は国語科、算数科ともに全国平均を上まわることができた。しかし、分析を行うと国語科の読解に課題が見られた。

このような実態から今年度も国語科を中心とした授業研究に取り組み、児童が自ら学べる複式授業のスタンダードを確立し、「読む力」を高めるための取組を行っていく。また、ことわざや慣用句、主語、述語、修飾語などのことばのきまりについては、基礎タイムなどを使って定着を図っていきたい。そして、能力ベースのめあての設定、つけたい力を明確にした授業研究や指導方法の工夫改善に努め、学年に応じた確かな学力の向上をめざしたい。帯タイムも活用し、放課後加力学習と連動させながら弱点の克服にも取り組んでいきたい。

思考力、判断力、伝える力の育成に役立てるよう教科学習と関連づけて研究を進めてきた新聞の活用は、今年度もふるさと教育と関連づけながら、地域に目を向けた学習につなげていく。そして、体験活動の良さを生かして学校の教育活動を地域に情報発信していける活動としていきたい。

研究仮説

- ・ひとり学びやとも学びを授業の中に取り入れ、言語活動を活発に行う授業を展開することで、表現力やコミュニケーション能力が高まるであろう。
- ・指導法の工夫改善を行い、子どもの思考過程や言語活動を明確にした授業づくりを行えば、主体的に学び豊かに表現できる子どもが育つであろう。
- ・丁寧な学習指導を行うことで、基礎基本を確実に身につけることができる。基礎基本が身に付けば問題文の読解ができるようになり、本校の課題解決につなげることができるであろう。

3. 研究の進め方と方法

①毎月、原則として水曜日を校内研究日として計画的に研究を進める。

ただし、研究推進に必要な場合は、臨時に研究日を設定する。

②研究日の司会と記録については、職員会の司会と記録同様に輪番制で担当する。

③研究の推進や検証に必要な研究授業を計画的に実施する。

学習指導案を作成し、全教員で研究授業に臨む。

- ④研究授業は水曜日に行い、全教員が参観し、事後研修をその後行う。
- ⑤基礎学力の定着と学力の向上をめざす。
- ⑥校内研のはじめに、学級の実態について話し、共通理解を図り、児童の情報交換を行う。
- ⑦指導力を向上させるために、外部講師を招聘して研究の質を高める。

※校内研究推進にあたって共通理解しておくべきこと

- ①子どもの実態に基づいた教育実践を進める。
- ②へき地・小規模校の特性が生かせる特色ある教育活動の創造に取り組む。
- ③教育実践を互いに見つめ合い、検証し合いながら共に教師として高め合う研究をする。
- ④前年度までの実践を継承すると共により良い実践となるよう改善しながら研究を進める。

4. 具体的な取組

① 授業づくり

- ・研究授業（国語科）を全学級が行い、主体的な児童の活動、教師の発問や評価の与え方を研究する。

教 科	月・日	学 年	教材名 ・ 主題名
国語	6 月 22 日	5・6 年生	5 年 動物たちが教えてくれる海の中のくらし 6 年 イースター島にはなぜ森林がないのか
国語	6 月 29 日	1 年生	1 年 こんなことしたよ
国語	11 月 9 日	2・3 年生	2 年 ビーバーの大工事 3 年 パラリンピックが目指すもの
国語	11 月 16 日	4 年生	4 年 くらしの中の和と洋
全校道徳	10 月 20 日	1～6 年	祭りだいこ

- ・言語活動を充実する（ひとり学び、ふり返し、授業後の感想）
- ・資質、能力ベースの「めあて」の提示
- ・大用小スタンダードをつかった授業の流れ
- ・国語科の物語文、説明文を中心に予習を行い、それを活用した授業づくり
- ・複式授業等の研究
- ・毎月板書を掲示し交流する。

②全校活動

- 作文・新聞朝会、クロッキー朝会を通し、意見や感想などを出させる。

③体験活動

- 縦割り班を活用し、リーダーを育て仲間づくりをしていく。地域の行事（片魚、常六との地域交流・まつり等）では児童主導で活動し、交流をする。

④基礎タイム

- 基礎学力向上をめざし、10分間学習を継続して行う。月～水は国語、木・金は算数の内容を行う。国語では言語活動や読解を中心に行う。

⑤加力学習

- 期間を設定し、放課後40分程度、全教職員で取り組む。

⑥家庭学習

- 「家庭学習の手引き」をもとに、基礎学力の定着や音読練習、家庭読書、予習等、授業へ向けての学習を習慣化させる。

⑦ふるさと教育

- これまでの行事を基本にしながらふるさとの良さを発見する取組を行う。
- 講師を招聘し、地域について学習する。

⑧ノート活用

- 定期的にノートを掲示し、取組を共有し合う。

⑨特別支援教育

全学級と教職員に児童理解学習を行う。

⑩新聞活用

新聞に興味を持ち、新聞に親しむ習慣をつける。

ワークホールに新聞コーナーを設ける。（高知新聞）

新聞朝会を行う。はがき新聞、学級新聞づくりを行う。

読み取った資料をもとに、自分の見方、考え方を広げたり、深めたりする。

授業の中で活用する。高知新聞へ投稿する。

新聞から表現方法を学び、学習のまとめとして新聞づくりを取り入れる。

5. 今年度の成果と課題【成果(○) 課題(●)】

○説明文の手引きや物語予習カード（低・中・高学年用）が作成できた。

○学力調査の採点、課題の把握、共有までがスムーズかつスピーディーに進められている。

○計画的な基礎タイムや加力学習が学力の定着に繋がっている。

○タブレットの使い方やプログラミングの教材の使い方を研修できて良かった。

○計画的に校内研や授業研等を進めることができた。

○予定通り研究授業を行い、学び合う中で、大用小の授業スタンダードに沿った授業展開を全学級ができた。

○学習リーダーを育成し、自分たちで学習を進める形が昨年度よりできた。

○児童理解の時間を設定し、児童の情報共有ができており、全体で成長を見守ることができた。

児童の様子を細かく共有できていることが、大きなトラブルなく一人ひとりが安心安全に過ごせることに繋がっている。

○研究が進むための環境設定や日程、資料の提供が万全で、スムーズに校内研が進んだ。

○学力調査後の課題点と方策が明確で、取り組みやすかった。

○国語科では、単元計画の作り方や子どもたちが学び合う方法が分かり、少しであるが実践できてよかった。

○多様化がすすむ今、男女にとらわれない LGBT という考え方について、より詳しく研修ができて良かったと思う。また、ヤングケアラーの実態を知り、その支援の流れなどを把握することで、早期発見、早期対応につながるということが分かった。

○授業研では、学習リーダーの活用方法や共に学び合える環境、指導、授業づくりが勉強になった。全体で共有することができているから高い学力に繋がっていると感じた。

○特別支援学級の授業を見てもらえたことで、関わり方なども共有することができ、児童が困り感なく過ごすことができた。

●来年度も小中連携の授業があると思うが、できる限り多くの人が参加できるような計画にしたい。

●研修ができるのは良かったが、その日になって行われることが分かった研修もあった。

●より児童主体の学習になるためには、単元のゴールとなる言語活動を児童にとって必然性のある魅力的なものにしていく必要がある。

●来年度完全複式になることをふまえ、複式授業のスタンダードをより具体的なものにして、低学年から高学年へとつながっていくようにしたい。

●国語科についてのともに学び合うスタンダード的なものが研究できればよかったと思う。

●全国体力・運動能力調査を分析し、課題を伝えることができたが、改善に向けての取組は提案・共有できなかった。

●「主体的・対話的で深い学び」になる授業をどのようにしていくかということが十分理解できていなかった。

●学習リーダーを育てるのが難しかったので、研修を行い、共通の取組にしていきたい。